

平成 22 年度東北地区大学図書館協議会合同研修会 グループ別情報交換会第 2 グループ C 情報交換内容

テーマ:安全な図書館について

第 2 グループ C では、主に以下の 5 点について情報交換を実施いたしました。

1.危機管理全般について

1-1. 避難場所について

3 月の震災発生時に、最も困ったことは何か、という点について情報交換したところ、安全な場所がどこなのかがわからない、という意見が多く出された。

図書館は、書架やガラスが多く、館内にいるのは危険であろうが、屋外に避難するにしても、時期によっては寒い場合もある。そのため日頃から、学生をどこへ誘導すればいいのか、職員自らがどこへ避難すればいいのか、しっかりと確認しておく必要があるのではないかと。

1-2. 備蓄について

グループ内の大学では、以前からの備蓄食料や毛布があったため、それらを提供して当面の状況をしのいだという。今後は日頃から防災用品や食料を備蓄することで、災害に備えたい。

1-3. 職員自身の安全確保について

災害発生中には、学生や利用者の安全を確保することが重要であると同時に、職員自身の安全を確保することも重要である。自分自身を災害から守りきらなければ、学生や利用者の避難誘導もできないため、地震の際は職員も机の下に入る等の行動を徹底する必要がある。

1-4. モニタ等への避難行動明示

東北大学附属図書館医学分館で実施しているように、館内に設置しているモニタに「災害発生時は机の下に避難してください」等のメッセージを常に表示しておき、学生や利用者の防災意識を高めておけばよいのではないかと。また、大学によっては留学生も多く、災害時にはパニックになって、指示を聞かない場合もあるため、日頃から、表示も多国語で行い、効果を高めるべきではないかと。また、紙の掲示を館内各所にするだけでも、効果があるのではないかと。

2. 防災マニュアルや避難訓練について

2-1. 図書館独自の危機管理マニュアルについて

全学的な防災マニュアル、危機管理マニュアルだけではなく、図書館に特化したマニュアルの作成も必要なのではないかと。避難訓練も同様で、図書館だけの避難訓練をぜひ実施したいと考えているが、なかなかできないのが現実である。

2-2. 担当箇所の事前取り決めについて

病院の場合、受け持ち病棟、階、患者が決まっている。図書館でも、担当の階や書架を事前に決めて、職員各自が自分の役割を把握することで、スムーズな避難誘導が可能なのではないかと。

3. 蔵書の落下対策

3-1. 落下防止用品について

落下防止バーやテープを、震災後に導入した館もあれば、導入を検討している館もある。落下防止テープについては、粘着成分が本に付着するのではないかという不安もあり、もう少し商品を見極めてから導入したほうが良いのではないか、という意見もあった。

3-2. 落下対策の留意点

そもそも蔵書の落下防止は、学生や利用者が避難する時間を稼ぐためのもの、あるいは落下によるケガを防ぐためのものである。落下した蔵書を書架へ戻す手間を省くためのものではないため、落下防止用品の導入を検討する際には、何を目的とした機器の導入なのかははっきりさせておく必要がある。

4. 書庫の立ち入りについて

4-1. 書庫の立ち入りについて

震災後しばらくは、余震で閉じ込められる危険を考慮し、ドアを閉めずに運用していた大学もあるが、現在では通常通りの運用をしている。しかし、電子錠のドアを採用している書庫の場合、停電が発生すると閉じ込められてしまう恐れもあるので、今後も注意が必要である。また、震災後から小さなライトを首から下げて入庫してもらっている館もあり、このような少ない費用でできる対策もあるので、検討してみてはどうか。

5. 不審者や盗難への対応について

5-1. 不審者への対応について

何かの罪を犯しているわけではないが、いわゆるクレーマーや不審な行動を取る利用者の報告が各館から行われた。対策としては、防犯ブザーを携帯したり、警備部署へいざというときの対応を事前に依頼したり、さまざまであったが、どの館でも対応には苦慮している様子である。

5-2. 盗難等の防止について

盗難防止のために、監視カメラを設置している館もあったが、やはりコストがかかる。そのため、一部をダミーカメラにしても、抑止力としての効果は望めるのではないかという意見がだされた。

また、近年ではパーテーションなどで間仕切りをしている館も多いが、仕切りの高さを高くしすぎると死角が生まれ、盗難等の被害につながる恐れもあるため、プライバシーを守りすぎないように留意すべきではないか。

【報告：葛西（青森中央学院大）】